

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園やクワイ畑があり、懐かしい故郷を思い起こす山が見え自然に恵まれた環境の中に「グループホーム憩」があります。近隣には保育所、小中学校、公民館等があり、平成15年の開業以来、子供たちや地域の人たちとの交流、町内行事への参加を通じて地域との関わりを大切にしています。入居者様には、その方に必要な病院との医療連携を図り、きめ細やかな健康管理に努めています。職員は理念にある「心の繋がり」を大切に、入居者様一人ひとりがその人らしく笑顔で、安心安全な暮らしが毎日送れるように介護・支援をさせていただきます。グループホーム憩がこの山手地域密着の拠点となれるよう頑張っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年12月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の風情が楽しめる山やクワイ畑などの田園風景が一望でき、自然に恵まれた環境である。管理者は細やかな愛情を利用者と職員にそそぎ、日常的に相手の立場にたって考え、自らやる気を出すような言葉かけをしている。職員は利用者により楽しく過ごしていただき、怪我がない様、安全面に気を配っている。職員同士仲がよく、人間関係がよいので働きやすいと満面笑顔で職員は語る。毎月担当者が自筆で便箋2~3枚の様子を知らせる手紙を書き、写真も添えて送付している。病気の通院・診療結果の報告も確実に行い、親切で細やかな対応をし「本人の状態が別人のように良くなった、安心してお願いできる」と、家族から喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

1ユニット

特定非営利活動法人 あしと

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として考え、理念を目標にケアを実践できるように常に考えている。いつも見える場所に掲示し、申し送りやミーティング等には話をしている。	理念『心のつながり大切に いつも一緒にゆったりと 笑顔あふれる家族愛』～見える場所に掲示している。いつも気持ちの中にあり大事にし、申し送り時など様々な場面で話している。問題がおきた時には常に立ち返り、意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の活動や、回覧板で行事予定を見て積極的に参加している。職員は近所の方々と顔馴染みになっており、挨拶や声掛けのしやすい近所付き合いが出来ている。	日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、店員と話をして馴染みの関係が出来ている。職員は公民館行事に利用者と一緒に参加し、盆踊りや文化祭には利用者の席を町内会が用意してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヵ月毎に開催する運営推進会議にご家族、町内会長、民生委員の代表、福祉を高める会会長、地域包括支援センターの方たちを招き、相互の情報交換や意見交換、勉強会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者様の状況報告、行事や活動の報告から、入居者様の重度化に伴うリスク、防災面も含めた危機管理などの問題点を報告し、情報交換、意見交換を持ちアドバイスを受けている。	利用者家族・地域の方々・市関連職員等に3週間前に案内状を出し、2ヶ月に1度、同法人の小規模多機能事業所と交代で議題を決め、開催している。事業所からの利用状況・サービス状況を報告し、参加者それぞれの立場から意見提案を投げかけてもらい、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が7名入居しておられることもあり、福山市生活福祉課とは連絡を密にしている。介護保険課、障害福祉課など入居者様との関連が深い部署とは相談や連絡が直ぐに取れるよう関係作りをしている。	利用者と関係がある市担当窓口とは課題解決に向けた話し合いや対応に、共に取り組んでいる。市からの情報はメールで送られてくる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に現場で職員同士が話し合い問題があればミーティングを持ち、身体拘束をしない、ならないよう対策を講じている。また、そうした内容は書面にて回覧され常に全職員が理解、把握できるようにしている。	職員みんなで連携を取りながら安全を確保し、自由な暮らしを支援している。毎月ヒヤリハットの事例をあげて内部研修をしている。接遇の研修もし、言葉遣いなどは職員同士で互いに注意し合える、言いやすい関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを各フロアに設置し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。申し送りやミーティングなどで必要に応じ検証しており防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者様には、すでに制度を利用しておられる。職員が権利擁護に関する制度について勉強会などで学習、理解する機会を持ち活用できるように考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明をしっかりと行い、必要であれば入居者様、ご家族、職員で話し合い、ご本人、ご家族が理解し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の意見や要望を聞いた職員は記録に残し職員全体に伝達している。直ぐに対応出来ないことは会議の場で検討する。ご家族には苦情箱を設置しているが、職員に直接話されている。	運営推進会議で家族に話を振り、意見をもらうようにしている。家族から面会時に要望を聞いた職員はすぐに記録に残し、対応出来る事は即実行している。管理者と家族は気軽に話し合える関係が出来ていて、相談を受けたら親身になって話しを聞き、善処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案には必要に応じて管理者、各フロア主任が対応している。入居者様に有益な事は直ちに実行している。同時に各フロアミーティングでも議題に上げ全ての職員が理解し質の高いケアが提供できるよう配慮している。	職員は利用者のことを思い、気づきなどはミーティングで意見として言う。管理者は意見等にはきちんと対応してくれる。職員は管理者に気軽に相談でき、メールでも相談にのってくれる。個人面談は必要に応じて行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護事業所の全体会議を月2回定期的に行い、管理者からの報告に基づき職場環境、条件などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回定期的にリスクマネジメントの勉強会、フロアミーティングを持ち、近隣のセミナー、勉強会には積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所、近隣地域の事業所との交流する機会を設けるよう努めている。合同のイベントや勉強会などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には、環境も変わり不安な様子が見られるため、ご本人、ご家族からの要望は、真摯に受け止め時間を掛けて傾聴する姿勢を持ち信頼関係を築くことの出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、ご本人の心身の状態など、よく聴いたうえで、施設として出来ること、出来ないことなどをご家族に説明し、理解、納得して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズを良く理解した上で、グループホームでの生活が可能か否か、タイミングとしてはどうかなど、十分に検討している。また必要に応じ、他事業所への紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様が、楽しみながら役割作業(洗濯物干し・たたみ、洗い物、ゴミ箱作り、など職員のお手伝い)をして頂く中で、職員は感謝やお礼の気持ちを伝えながら、良いかわりを多く持てるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご家族にしか出来ないことを理解していただいた上でご協力をお願いし、一緒に支える関係作りをしている。誕生日会や外出イベントへの参加を呼びかけ一緒に楽しく過ごせる時間を共有できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談からご本人、ご家族からお話を伺い、入居後も馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご家族や関係者と相談しながら支援に努めている。	入所間もない利用者には頻りに馴染みの方が訪ねて来られる。本人が電話を掛け友達を事業所に呼んだり、墓参りや法事等での外泊、孫の運動会で外出は家族の協力を得て行っている。買い物に週2回一緒に行く利用者は店の方と馴染みの関係になり、店員が声を掛けてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者様一人ひとりの生活歴や個性を尊重し、入居者様が孤立することなく、仲良く助け合って生活ができる環境づくりに配慮し支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため退去された方には、お見舞いにいたり、他施設に入所された方の面会に伺う、など連絡をとるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いや要望、好き嫌いなどを把握し、支援に繋げている。言葉での意思表示が困難な方でも、表情や動作を注意深く見守り、意向を汲み取るようにしている。	日頃の会話の中から、利用者本人の気持ちになって考え、職員みんなで話し合って対処している。重度で困難な場合は、カンファレンスで話し合って、どんな思いを持たれているか推察して、職員は介護の仕方を共有し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方に関する情報はご本人やご家族からの聞き取っている。また知人や友人の来訪時に邪魔にならない配慮をし思い出話を伺っている。入居前に利用施設があれば、連絡を取り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同じ状態では無い、いつ急変されるかわからない、と云う認識野のもと状態の変化に応じた細かいケアを心がけている。健康管理、服薬管理、日常の様子の記録をとり、職員はきょうゆうしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書に基づき、職員間でのミーティング・アセスメントをしている。問題点を常に意識して日々のケアに臨んでいる。ご本人、家族、医師、看護師職員、関係者と話し合いをして、状態に変化があれば介護計画を作成している。	アセスメントしながら問題点を見つけ、サービス担当者会議で検討して、介護計画を立てている。面会時に家族から話を聞いたり、往診時にかかりつけ医に意見を伺ったりして、プランに反映させている。個々に沿った見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況記録をして必要な情報は、常に閲覧、回覧し、実践や介護計画の見直しに活かせるように勤めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって安心できる場所が「憩」であり、自分を受け入れてくれるひとは職員だ、と思っただけのよう一人ひとりのご要望に添った支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化活動への参加や交流、ボランティアの方による慰問、市の担当課、消防などとの連携を含めた支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医や、協力医と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。皮膚科、歯科医の訪問診療、往診対応も充実している。	協力医療機関とは月2回の往診の際、利用者の健康状態に応じた適切な支援を受けられるよう事前に看護師と連携をとっている。皮膚科は月1回、歯科は利用者に応じて訪問診療を受けている。利用者や家族が安心出来る体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	G・H懇の介護職員は、施設内の看護師、福山記念病院の訪問看護師と連絡を密にし、適切なアドバイスを受けながら治療、受診、往診など必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、必ず管理者がご家族と同席して、入居者様、ご家族をフォローしている。負担軽減のため、洗濯や入退院時に必要な物品の調達などもご家族の相談に乗りながら対応している。ご本人やご家族の意向を踏まえ円滑に入退院、加療が進むよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的な方針やリスクを想定した対応の説明を入居時に説明し同意を頂いている。入居者様の状況変化に応じ、医師や看護師に相談し施設として出来ること、出来ないことなど見極めながらご本人、ご家族に説明しており、誰もが後悔しない支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合の指針を説明し、終末期に事業所が対応できる最大の介護について説明をしている。協力医との連携は築かれており、状況によっては入院の場合もあるが、本人と家族が安心して納得した最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを各部署に配置し誰もが必要とする時に見られるようにしている。毎月行うリスクマネジメント勉強会や年1、2回第1次救急救命の勉強会を実施、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練、勉強会を実施している。地震津波などの災害に対しては地域の有識者と情報交換を行っており、災害への備えを地域な方々と協力して行えるよう努めている。	年2回の消防訓練前に全職員参加で夜間想定も含めた避難訓練等の勉強会を行い、意識づけを図っている。職員は緊急対応マニュアルで常にシミュレーションするよう心掛けている。事業所行事の時に地域の方々に内部を見学してもらい、避難時に支援を得るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切に声掛けや対応を心がけている。その上で、家族的な親しみやすさを失わないように配慮している。	利用者一人ひとりの場面に応じて笑顔で対応し親しみやすく丁寧な声掛けを行っている。接遇の研修を受けた職員はレポートを提出し、職員の共有認識を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮や心配せずに、思いや希望を表出できるよう職員は関係づくりを心がけている。また、入居者様の言動が緩慢になったり、たとえ行為が中断することがあっても急かさず、その方のペースに合わせて支援するよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行、加齢に伴う重度化により、これまで通りの生活の維持が困難になられる中で、職員は精一杯寄り添う支援を心がけている。活発な方には、やりがいや生きがい、笑顔に繋がる支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店や美容院への外出支援、ボランティアによるカットや毛染めなど一人ひとりのニーズに合わせて対応している。可能な限り、ご本人に着的物は選んで頂いている。希望される方には、お化粧品のお手伝いもさせていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは自分の仕事、と誇りを持ってお手伝いくださる入居者様も居られる。そのときの気分でお手伝いされる方も居られるので、職員は皆様の様子を観ながら声掛けをしている。食事は、出来る限り入居者様と一緒に頂くようにしている。また、年に数回は外食を企画しており季節感と共に食事を楽しんでいただいている。	ユニット毎利用者の身体状況に合わせた献立にしている。災害時に備えて非常食の献立もある。テーブルふきなど出来る利用者には声掛けをし職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様それぞれの好みに配慮しつつ、主治医と相談のうえ食事の質や量などを検討している。嚥下障害や摂取障害のある方は食事の内容や形態、介助の仕方など個別に支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりの状態やペースに合わせて口腔ケアや声かけを行っている。歯科の訪問診療や歯科衛生士による口腔ケアなど必要に応じ、ご家族の同意を得て支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の気持ちや負担に配慮しながら、出来る限りトイレでの排泄の支援を心がけている。可動式手摺りのトイレやポータブルトイレ、入居者様のADLの応じた排泄支援を心がけている。日中と就寝後の夜間においても、職員の見守りと、介助にて紙パンツやパットを使い分けている。	利用者の介護状況に応じて排泄チェック表や申し送りノートでパターンの把握をしており、自立に向けたトイレ誘導を支援している。夜間、トイレ誘導が困難な利用者には部屋替えるなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事に加え、副食やおやつには乳製品の物や、自家製のゼリーなどをお出ししている。生活の中でその方に適した運動をしていただけるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望を優先して入浴のスケジュールを組み立てている。ゆっくりと安心して安全に入浴していただく為に、その時の体調を重視している。一人の方に対し、職員は1名ないし2名で対応している。	週2~3回を基準に利用者の希望や状況に合わせて入浴してもらっている。入浴剤を入れる等して、ゆっくりと安心して気持ちよく入浴してもらうための工夫が行われている。男性の利用者には入浴時かみそりでひげそりをして喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内にはソファを置き、簡易ベッドを用意している。入居者様は居室でもリビングでも急速を自由に取ることができる。定期的に寝具や室内の清掃をし、巡回時には室温、湿度の確認、調整をし快適な睡眠が得られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は医師、看護師からの指示や情報は書面にて確認のうえ勤務に就いている。服薬後に些細なことでも変化が現れたときは、必ず記録しその内容に応じ看護師、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で楽しめるもの、少人数であるいは一人で楽しめるものなど、職員は試行錯誤しながら入居者様が飽きないよう、工夫している。誕生日、季節の催し、ゲーム、カラオケ、読書、習字、折り紙、編み物など多数。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出、花見、薔薇祭り、盆踊り、菊花展や外食は皆様が楽しみにしておられる。個別には、ご家族と相談して対応している。美容院、マッサージ、喫茶店、移動図書館の利用、買い物、町内のイベントなど。	利用者の体調に合わせて散歩、買い物、外食など出かける機会をもうけている。季節折々の慣例行事を利用者はとても楽しみにしている。利用者個人の希望にそって戸外に出かけられるよう家族とも相談しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、所持しておられる方が数名。施設で預かり、外出時にお渡しする方も居られる。出来る方には、ご自分で精算までされ職員は付き添い、見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や連絡先の事情に十分配慮し、時間やタイミングを図り、入居者様の不安や混乱しないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはブラインドやカーテンを用い、プライバシーに配慮しながらもゆったりと過ごして頂けるよう工夫をしている。照明、温度、湿度を常に入居者様の体調や気持ちに沿うよう努めている。季節の装飾やイベントの展示など、入居者様にもお手伝いしていただきながら行っている。	玄関にはその日の出勤職員の笑顔の似顔絵が掲示されており、ほのぼのとした雰囲気である。共用空間は広く、机・椅子の配置に工夫がみられ、利用者各々の居場所が出来ている。和室は明るくいつでも寝転ぶことができ、家庭的である。利用者は日中、共用空間で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な移動の空間を確保し、転倒の危険に十分配慮した上でソファや椅子を配置している。また、その時の状況に応じ、臨機応変に配置を換えて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が長い間使っていた物に愛着のあるもの、思い出のアルバム、ご家族と一緒に写った写真などを持ってきていただいている。そうした思い出の品についてご本人やご家族からお話を繰り返しお聞きするようにしている	アルバムや思い出の物が持ち込まれ居心地良く過ごせるよう工夫している。個々の居室の洗面所には、水が張っており空気が乾燥しないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりについての心身の様子を日々の申し送りやミーティングで、定期的なカンファレンスで中期、長期的な視野での検討を行い、必要に応じて居住環境や対応の検討、対策を講じている。		

自己評価および外部評価結果

2ユニット

特定非営利活動法人 あしすと

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として考え、理念を目標にケアを実践できるように常に考えている。いつも見える場所に掲示し、申し送りやミーティング等には話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の活動や、回覧板で行事予定を見て積極的に参加している。職員は近所の方々と顔馴染みになっており、挨拶や声掛けのしやすい近所付き合いが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月毎に開催する運営推進会議にご家族、町内会長、民生委員の代表、福祉を高める会会長、地域包括支援センターの方たちを招き、相互の情報交換や意見交換、勉強会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者様の状況報告、行事や活動の報告から、入居者様の重度化に伴うリスク、防災面も含めた危機管理などの問題点を報告し、情報交換、意見交換を持ちアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が7名入居しておられることもあり、福山市生活福祉課とは連絡を密にしている。介護保険課、障害福祉課など入居者様との関連が深い部署とは相談や連絡が直ぐに取れるよう関係作りをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に現場で職員同士が話し合い問題があればミーティングを持ち、身体拘束をしない、ならないよう対策を講じている。また、そうした内容は書面にて回覧され常に全職員が理解、把握できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを各フロアに設置し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。申し送りやミーティングなどで必要に応じ検証しており防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者様には、すでに制度を利用しておられる。職員が権利擁護に関する制度について勉強会などで学習、理解する機会を持ち活用できるように考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明をしっかりと行い、必要であれば入居者様、ご家族、職員で話し合い、ご本人、ご家族が理解し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の意見や要望を聞いた職員は記録に残し職員全体に伝達している。直ぐに対応出来ないことは会議の場で検討する。ご家族には苦情箱を設置しているが、職員に直接話されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案には必要に応じて管理者、各フロア主任が対応している。入居者様に有益な事は直ちに実行している。同時に各フロアミーティングでも議題に上げ全ての職員が理解し質の高いケアが提供できるよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護事業所の全体会議を月2回定期的に行い、管理者からの報告に基づき職場環境、条件などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回定期的にはリスクマネジメントの勉強会、フロアミーティングを持ち、近隣のセミナー、勉強会には積極的に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所、近隣地域の事業所との交流する機会を設けるよう努めている。合同のイベントや勉強会などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には、環境も変わり不安な様子が見られるため、ご本人、ご家族からの要望は、真摯に受け止め時間を掛けて傾聴する姿勢を持ち信頼関係を築くことの出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、ご本人の心身の状態など、よく聴いたうえで、施設として出来ること、出来ないことなどをご家族に説明し、理解、納得して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズを良く理解した上で、グループホームでの生活が可能か否か、タイミングとしてはどうかなど、十分に検討している。また必要に応じ、他事業所への紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が、楽しみながら役割作業(洗濯物干し・たたみ、洗い物、ゴミ箱作り、など職員のお手伝い)をして頂く中で、職員は感謝やお礼の気持ちを伝えながら、良いかわりを多く持てるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご家族にしか出来ないことを理解していただいた上でご協力をお願いし、一緒に支える関係作りをしている。誕生日会や外出イベントへの参加を呼びかけ一緒に楽しく過ごせる時間を共有できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談からご本人、ご家族からお話を伺い、入居後も馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご家族や関係者と相談しながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者様一人ひとりの生活歴や個性を尊重し、入居者様が孤立することなく、仲良く助け合って生活ができる環境づくりなどに配慮し支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため退去された方には、お見舞いにいたり、他施設に入所された方の面会に伺う、など連絡をとるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いや要望、好き嫌いなどを把握し、支援に繋げている。言葉での意思表示が困難な方でも、表情や動作を注意深く見守り、意向を汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方に関する情報はご本人やご家族からの聞き取っている。また知人や友人の来訪時に邪魔にならない配慮をし思い出話を伺っている。入居前に利用施設があれば、連絡を取り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同じ状態では無い、いつ急変されるかわからない、と云う認識野のもと状態の変化に応じた細かいケアを心がけている。健康管理、服薬管理、日常の様子記録をとり、職員はきょうゆうしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書に基づき、職員間でのミーティング・アセスメントをしている。問題点を常に意識して日々のケアに臨んでいる。ご本人、家族、医師、看護師職員、関係者と話し合いをして、状態に変化があれば介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況記録をして必要な情報は、常に閲覧、回覧し、実践や介護計画の見直しに活かせるように勤めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって安心できる場所が「憩」であり、自分を受け入れてくれるひとは職員だ、とっていただけるよう一人ひとりのご要望に添った支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化活動への参加や交流、ボランティアの方による慰問、市の担当課、消防などとの連携を含めた支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医や、協力医と連携をして適切な医療が受けられるよう支援している。皮膚科、歯科医の訪問診療、往診対応も充実している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	G・H憩の介護職員は、施設内の看護師、福山記念病院の訪問看護師と連絡を密にし、適切なアドバイスを受けながら治療、受診、往診など必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、必ず管理者がご家族と同席して、入居者様、ご家族をフォローしている。負担軽減のため、洗濯や入退院時に必要な物品の調達などもご家族の相談に乗りながら対応している。ご本人やご家族の意向を踏まえ円滑に入退院、加療が進むよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的な方針やリスクを想定した対応の説明を入居時に説明し同意を頂いている。入居者様の状況変化に応じ、医師や看護師に相談し施設として出来ること、出来ないことなど見極めながらご本人、ご家族に説明しており、誰もが後悔をしない支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを各部署に配置し誰もが必要とする時に見られるようにしている。毎月行うリスクマネジメント勉強会や年1、2回第1次救急救命の勉強会を実施、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練、勉強会を実施している。地震津波などの災害に対しては地域の有識者と情報交換を行っており、災害への備えを地域の方々と協力して行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切に声掛けや対応を心がけている。その上で、家族的な親しみやすさを失わないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮や心配せずに、思いや希望を表出できるよう職員はな関係づくりを心がけている。また、入居者様の言動が緩慢になったり、たとえ行為が中断することがあっても急かさず、その方のペースに合わせて支援するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行、加齢に伴う重度化により、これまで通りの生活の維持が困難になられる中で、職員は精一杯寄り添う支援を心がけている。活発な方には、やりがいや生きがい、笑顔に繋がる支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店や美容院への外出支援、ボランティアによるカットや毛染めなど一人ひとりのニーズに合わせ対応している。可能な限り、ご本人に着る物は選んで頂いている。希望される方には、お化粧品のお手伝いもさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは自分の仕事、と誇りを持ってお手伝いくださる入居者様も居られる。そのときの気分でお手伝いされる方も居られるので、職員は皆様の様子を観ながら声掛けをしている。食事は、出来る限り入居者様と一緒に頂くようにしている。また、年に数回は外食を企画しており季節感と共に食事を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様それぞれの好みに配慮しつつ、主治医と相談のうえ食事の質や量などを検討している。嚥下障害や摂取障害のある方は食事の内容や形態、介助の仕方など個別に支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりの状態やペースに合わせて口腔ケアや声かけを行っている。歯科の訪問診療や歯科衛生士による口腔ケアなど必要に応じ、ご家族の同意を得て支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の気持ちや負担に配慮しながら、出来る限りトイレでの排泄の支援を心がけている。可動式手摺りのトイレやポータブルトイレ、入居者様のADLの応じた排泄支援を心がけている。日中と就寝後の夜間においても、職員の見守りと、介助にて紙パンツやパットを使い分けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事に加え、副食やおやつには乳製品の物や、自家製のゼリーなどをお出ししている。生活の中でその方に適した運動をしていただけるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望を優先して入浴のスケジュールを組み立てている。ゆっくりと安心して安全に入浴していただく為に、その時の体調を重視している。一人の方に対し、職員は1名ないし2名で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内にはソファを置き、簡易ベッドを用意している。入居者様は居室でもリビングでも急速を自由に取ることができる。定期的に寝具や室内の清掃をし、巡回時には室温、湿度の確認、調整をし快適な睡眠が得られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は医師、看護師からの指示や情報は書面にて確認のうえ勤務に就いている。服薬後に些細なことでも変化が現れたときは、必ず記録しその内容に応じ看護師、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で楽しめるもの、少人数であるいは一人で楽しめるものなど、職員は試行錯誤しながら入居者様が飽きないよう、工夫している。誕生日、季節の催し、ゲーム、カラオケ、読書、習字、折り紙、編み物など多数。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出、花見、薔薇祭り、盆踊り、菊花展や外食は皆様が楽しみにしておられる。個別には、ご家族と相談して対応している。美容院、マッサージ、喫茶店、移動図書館の利用、買い物、町内のイベントなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、所持しておられる方が数名。施設で預かり、外出時にお渡しする方も居られる。出来る方には、ご自分で精算までされ職員は付き添い、見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や連絡先の事情に十分配慮し、時間やタイミングを図り、入居者様の不安や混乱しないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはブラインドやカーテンを用い、プライバシーに配慮しながらもゆったりと過ごすための工夫をしている。照明、温度、湿度を常に入居者様の体調や気持ちに沿うよう努めている。季節の装飾やイベントの展示など、入居者様にもお手伝いしていただきながら行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な移動の空間を確保し、転倒の危険に十分配慮した上でソファや椅子を配置している。また、その時の状況に応じ、臨機応変に配置を換えて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が長い間使っていた物に愛着のあるもの、思い出のアルバム、ご家族と一緒に写った写真などを持ってきていただいている。そうした思い出の品についてご本人やご家族からお話を繰り返しお聞きするようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりについての心身の様子を日々の申し送りやミーティングで、定期的なカンファレンスで中期、長期的な視野での検討を行い、必要に応じて居住環境や対応の検討、対策を講じている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者、ご家族様に安心して頂ける防災、災害対策の推進	・夜間における火災・災害発生時の対策の構築 ・上記における地域との連携 ・ご家族との連絡・連携	・夜間を想定した訓練を消防署、地域の方と共同して行う。 ・災害(地震・津波)発生を想定した対策勉強会の実施、及びマニュアル作成、備蓄品の検討	1年
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。